

の佛陀を現はすに用ひてゐるのであり、「ナンディの足」といふ名は、牛類の偶蹄が地上に残す跡を示し、同時に之が牛宿の標であつて、此の星宿は世尊の降誕と関係のある事を忘れてはならないものである。同様に柱頭にある象や獅子も佛教徒に或意味のあつたものである。下の横材の兩端にある孔雀は、マウルヤ *Maurya* 王朝を示す紋章の類とする事が出来る。(孔雀の梵語 *Mayūra* 及び巴利語名 *Mora* と王朝名との關係に依る。)かの阿育王は之に屬する。又優雅な裝飾になつてゐる夜叉女にしても、教徒の尊信に意味があつたのである。上の横材の裝飾に二本の樹と五基の塔とが並び、下の正面には七本の樹が列んでゐるが、近年まで之以上の事は知れなかつた一例であつて、こゝに十分の注意を要する事が解かる。即ち今日では、之等七箇の象徴は、釋迦牟尼佛等過去七佛を現はしてゐる事を知るに至つたのである。

更に、横材を仕切つてゐる小束や豎材には、降誕、成道、轉法輪、涅槃の如き古い題材を見るのであり、脚柱と共に、下の二横材にも、何か佛教的傳説を確かに示してゐる。